

令和4年度業務実績に関する評価（案）の概要

1 業務実績（税込）

（単位：百万円）

区 分	R3年度（実績）A	R4年度（実績）B	B - A
経常収益	50,464	50,980	516
医業収益	40,746	40,895	149
経常費用	49,116	50,471	1,355
医業費用	48,120	49,518	1,398
経常収支	1,348	509	▲839
経常収支比率	102.7%	101.0%	▲1.7
当期純損益	1,174	347	▲827

2 業務実績全体にかかる総合的な評価（要旨）

医 療 面	<ul style="list-style-type: none"> 県立病院としての使命を引き続き担い、総合病院での外来化学療法加算件数や、ダ・ヴィンチ使用手術件数の増加など、医療の質の更なる向上とそのための体制づくりへの努力が引き続き認められる また、新型コロナウイルスの感染拡大への対応に当たっては、専用病床の確保や患者の受入れなど、県内の医療提供体制の確保に貢献している
経 営 面	<p>新型コロナウイルス感染症の影響に加え、光熱水費の高騰や、総合病院におけるバンコマイシン耐性腸球菌の発生を受け、医業収支が悪化したが、引き続き新型コロナウイルス感染症関連の補助金等が交付されたほか、総合病院における管理一体型ESCO事業の導入等の経営努力により、経常収支においては法人設立後14年連続で黒字決算を達成</p>
総合的評価	<p>新型コロナウイルス感染症等の影響を受けつつも、医療面・経営面の双方で、中期目標の達成に向けての努力と着実な進展がみられる</p>

3 機構の業務実績・自己評価

（1）機構自己評価（機構が行動計画として設定した全119項目）

区 分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
S：計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている	7	9	<A→S> 【18】リハビリ体制の充実（子） <未→S> 【8】患者満足度
A：計画に対し十分に取り組み、成果が得られている	97	91	<A→B> 【30】高精度な放射線治療の提供（総） 【36】先端医学棟の手術室の運用（総）
B：計画に対し、十分に取り組んでいる	10	17	【41】精神科救急の充実（心） 【43】精神科患者への高度医療（心）
C：計画に対する取組みは十分でない	0	0	【51】小児重症心疾患の専門的治療（子） 【53】小児がん拠点病院の取組（子）
未評価（※暫定評価時データ集計中）	5	0	【61】医療従事者数の確保 【96】公開講座
評価対象外	—	2	<B→A> 【68】海外視察 【55】救急関係研修会（子）、【97】県民向けイベント（総、子）
計	119	119	

(2) 令和4年度数値目標の達成状況（機構が中期計画・令和4年度計画において指標設定）

区分	暫定評価	本評価	
目標達成	17	11	
目標未達成	7	15	<p>【10・11】 紹介率・逆紹介率(心、子)</p> <p>【25・40・50】 入院患者数(3病院)・外来患者数(心)</p> <p>【36】 手術件数(総)</p> <p>【39・49】 病床稼働率(総、心)</p> <p>【30】 放射線治療症例件数(総)</p> <p>【41】 時間外診療件数(心)</p> <p>【43】 m-ECT実施件数(心)</p> <p>【51】 心臓カテーテル治療実績(子)</p> <p>【53】 小児がん登録件数</p> <p>【61】 医師数(心、子)、【96】 公開講座数</p>
未評価	2	0	
計	26	26	

4 県評価（全119項目のうち、県が数値目標項目など69項目を「重点項目」として設定）

区分	暫定評価	本評価	暫定評価からの変更項目
☆：良好で特に着目する状況	7	9	<○→☆> 【18】 リハビリ体制の充実(子)
○：良好な状況	55	56	<未→☆> 【8】 患者満足度
△：より一層の取組を期待	4	4	<未→○> 【64】 看護師職員確保対策
▼：取組改善を強く要望	0	0	【108】 業務改善運動推進制度実績件数
未評価	3	0	
計	69	69	

5 実施状況の調査・分析

(1) 項目別要旨

県民に対して提供するサービスの他の業務の質の向上	医療の提供	総合病院での外来化学療法加算件数や、ダ・ヴィンチ使用手術件数の増加など、 <u>医療の質の更なる向上が図られている</u>
	医療従事者の確保及び質の向上	総合病院のメディカルスキルアップセンターにおいて現場に即した実践的な研修が提供されているほか、各病院における院内施設の充実など、 <u>就労環境の向上に取り組んでいる</u>
	医療に関する調査及び研究	総合病院の研究サポートセンターにおける研究など、意欲ある医師への研究や学術交流の機会の提供により、 <u>本県医療水準の向上に寄与している</u>
	医療に関する地域への支援	県内医療機関への医師派遣等により地域医療提供体制維持に貢献したほか、地域の医療従事者の養成や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、高度・専門医療の技術や知見が積極的に <u>地域に共有・還元されている</u>

災害等における医療救護	新型コロナウイルス感染症対応のためのDMAT派遣など、 <u>災害対応の基幹的役割を果たしている</u>
業務運営の改善及び効率化	薬品・診療材料の適正な調達・在庫管理や業務改善運動の推進等、 <u>業務運営の効率化に継続して取り組んでいる</u>
財務内容の改善に関する事項	経常収支において、約5.1億円の黒字を確保し、 <u>地方独立行政法人化後、14年連続で経常収支比率100%以上を達成した</u>

(2) 項目別業務実績評価抜粋（県評価のうち☆及び△の項目を抽出）

※下線部は暫定評価からの修正・追加事項

No.	内容	県評価	県評価
		機構評価	
5	チーム医療の推進	☆	<ul style="list-style-type: none"> 総合病院の院内感染対策チームによる、新型コロナウイルス患者の受入れ対応により県内医療提供体制の確保に貢献 総合病院への精神身体合併症病棟の設置に向けた体制の整備（県立病院機構精神科あり方検討ワーキンググループの開催、総合病院の精神科リエゾンチームや認知症ケアチームを中心とした取組）
		S	
8	<u>患者満足度の向上</u>	☆	<ul style="list-style-type: none"> <u>患者満足度は3病院とも目標値を上回る</u> （総合 入院 99.0%、外来 95.9% <u>こころ 外来 92.3%</u> <u>こども 入院 95.9%、外来 100.0%</u>）
		S	
15	感染症医療の取組	☆	<p>【新型コロナウイルス感染症への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3病院における病床の確保により、県内医療提供体制確保に貢献 （総合 24床、こころ 4床、こども 34床） <p>【結核への対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合病院においては県内最大規模の結核病床（50床）を維持し、県全体の結核対策に貢献
		S	
18	<u>リハビリテーション活動の充実（こども）</u>	☆	<ul style="list-style-type: none"> <u>理学療法件数の増加</u> （R3 24,683件→R4 25,770件） <u>作業療法件数の増加</u> （R3 7,794件→R4 11,495件）
		S	
31	外来化学療法の充実（総合）	☆	<ul style="list-style-type: none"> 外来化学療法加算件数の増加 （R3 12,812件→R4 13,854件） 抗がん剤治療の副作用である脱毛を抑制する頭部冷却装置（PAXMAN）の導入により、患者のQOL向上に寄与
		S	

No.	内 容	県評価	県評価
		機構評価	
34	ロボット支援手術の活用（総合）	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・ダ・ヴィンチ使用手術件数の増加 (R3 261 件→R4 328 件) ・外部講師の招聘、ロボット手術運営部会の立ち上げ等により、高度な専門的医療の提供体制を拡充
		S	
75	勤務環境の向上	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・就学前児童の養育資金貸付制度(R3 創設)の取組を全国の自治体に発信し、多くの病院の関心を集めた
		S	
77	研究支援体制の充実	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・きこえとことばのセンターにおけるこれまでの継続的な取組や研究成果が、静岡社会健康医学大学院大学における全国初の「聴覚・言語コース」の設置に貢献 ・臨床研究数の増加 (R3 329 件→R4 409 件)
		S	
104	業務運営の改善及び効率化	☆	<ul style="list-style-type: none"> ・管理一体型 ESCO 事業の導入により、光熱水費の上昇抑制及び施設管理費用の削減
		S	
17	リハビリテーション活動の充実（こころ）	△	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション件数は減少傾向 (H30 11,517 件→R 元 8,945 件→R2 8,080 件→R3 5,949 件→R4 5,772 件) ・新型コロナウイルス感染対策（一回あたりの受入人数を制限、感染リスクの低い野外での活動、リモートによる活動）を行いながら、利用者とのつながりを維持 ・一方で、<u>デイケアは徐々に従来の活動を再開しており、今後、件数の増加が見込まれる</u> ・デイケア等の利用者増加に向けた、継続した取組を期待
		B	
39 49	病床稼働率（総合・こころ）	△	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により、各病院の病床稼働率は中期目標で示した目標値未達成であるため、今後の取組に期待
		B	
67	ラーニングセンターの活用（こども）	△	<ul style="list-style-type: none"> ・病棟再編の検討等の影響により、使用を一時休止 ・ワーキンググループを開催し、L 棟 3 階大会議室をラーニングセンターとして整備する方針を決定 (令和 5 年度に整備、令和 6 年度からの運用を予定)
		B	